

寺松商店

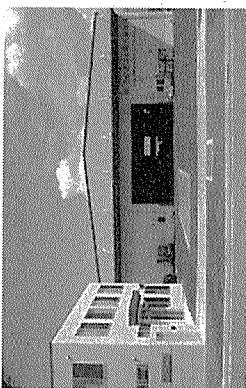
久留米営業所が移転

防音・防振で近隣に配慮

(九州通信) 製紙原料問屋の(株)寺松商店(福岡県久留米市津福今町三七一一、寺松哲雄社長)は、隣接の久留米営業所(同所)老朽化に伴い近隣の工業団地内に営業所を移転、先ごろ業務を開始した。

新営業所の敷地面積は約三、六三〇平方メートルで工場棟が九九〇平方メートル、事務所棟六六平方メートル。新ヤードでの月間取扱量は約二千ト。主要設備は渡辺鉄工業一〇〇馬力ベーター、五〇トトラックスケールを新たに導入、拓己技研製選別ラインを旧営業所から移設した。

構内はベーターを防音板で囲うことで騒音を抑える工夫がなされているほか、ベーターの周りに振動を抑制する



ゴムを埋め込むなど近隣に配慮した。また外灯にはLED照明を採用している。



営業所長の寺松一寿専務は、今回の移転について「昨年、法人化から五〇年を迎えた。寺松商店発祥の地である久留米営業所を移転することで、家業から企業への転換

(写真・右から) 新・久留米営業所と新たに導入した渡辺鉄工業ベーター

のシンボルとなるよう一層邁進したい」と話す。

【久留米営業所】住所 福岡県久留米市梅満町九一一、TEL〇九四二一三五一一八四七、FAX一八四九。

段ボール速報7月

生産・出荷ともに微増

(東京通信) 経済産業省による七月の段ボール生産は、速報値で一億三、四一六万四千平方メートル、出荷(消費+販売)は一億二、八四五万四千平方メートルとなった。前月比で生産、出荷とも一・二%増と小幅の伸びにとどまり、前年比では生産が〇・六%の微増、出荷は〇・一%増にとどまりほぼ横ばいと伸び悩んだ。

29日、紙関連技術講演会 工場のQC活動事例発表

静岡紙パ技協

(静岡通信) 静岡県紙パルプ技術協会、富士工業技術支援センターは二十九日午後一時三十分から、富士市大淵のセンター大研修室で「第三回紙関連技術講演会」を開く。今回は大手製紙工場のQC活動の事例発表会を行う。参加費無料、定員百名。聴講希望者は二十二日までに、申込書で協会事務局かセンターへ申し込む(TEL〇五四五一一三五一一五〇二五、FAX五〇二七)。演題と講師は次の通り。

- ① 日本製紙富士工場の小集団活動(神尾宏光技術室技術調査役)
- ② 特種東海製紙島田工場のT.P.M活動(鈴木宏志元特種東海製紙島田工場技術課長)
- ③ 王子製紙富士工場のサークル活動(福永信幸王子製紙富士工場技術部長)